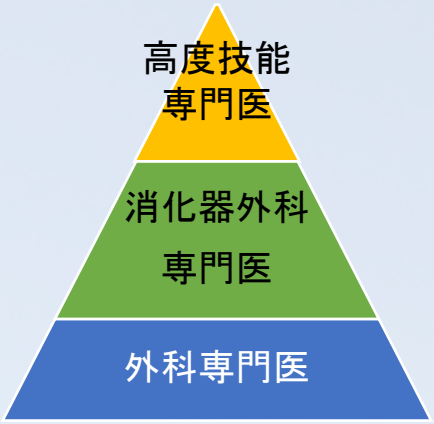
Vol.12. 2024.7

順天堂大学練馬病院外科だより

消化器外科：肝胆膵高度技能専門医修練施設

高度技能専門医制度

肝胆膵手術は、消化器外科手術の中でも特に難易度が高く、この難しい手術を安全、かつ確実に行うことのできる外科医を育てる目的で2008年にできたのが高度技能専門医制度です。消化器外科専門医の資格を取得後、認定された修練施設で3年以上の修練を積み、直接高度技能専門医の指導を受け、定められた手術実績と書類審査に加え、高難度肝胆膵手術の無編集ビデオを提出して審査を受け、通過したものが高度技能専門医となります。



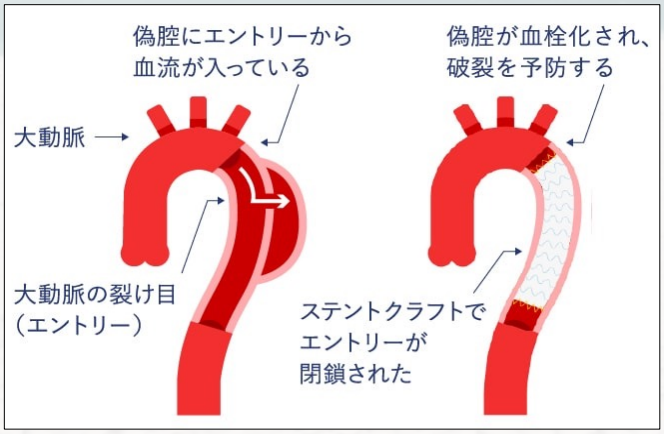
高度技能専門医修練施設

日本肝胆膵外科学会の審査で、高度技能専門医のもと、年間30例以上の高難度手術数などの条件をクリアした施設が認定され、専門医取得の修練が可能です。今回、当院は練馬区で初の高度技能専門医修練施設に認定されました。東京都がん診療連携拠点病院として、今後も、安全性を大事に、高難度肝胆膵外科手術、またロボット支援下手術をはじめとする低侵襲手術に力を入れて参ります。

消化器外科　野呂拓史

心臓血管外科：大動脈解離のステントグラフト治療

大動脈解離は、大動脈瘤破裂と共に突然死する病気として恐れられています。東京都急性大動脈スーパーネットワークのデータでは、急性大動脈解離の発症は10万人あたり年間10人と報告され年々増加傾向です。以前は上行大動脈に解離が及ぶStanford A型は外科手術、それ以外（Stanforrd B型）は内科治療とされていましたが、最近の報告では内科治療よりステントグラフト治療で解離entryを閉鎖した方が瘤関連死や進行が減少したとの報告があり、最近は先制攻撃の(pre-emptive) TEVARが注目されています。



ガイドラインでも拡大が予測される解離に対してのTEVARはclass Ⅱa と推奨されています。自験例でもTEVAR後に解離の進行が抑制され元の状態に近くなるという非常に良い結果が得られています。しかし解離の全例に十分な効果が得られるとは限りませんので、解離の形態、治療時期、治療範囲を良く検討し実施するようにしています。慢性解離であっても治療効果が望めることがありますので、そのような症例があれば是非ご紹介いただければと思います。

心臓血管外科 土肥静之

受診希望の際は予約センター（03-5923-3240）までお電話下さい。